

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

本島南部地区

策定主体：沖縄本島南部地区さとうきび増産プロジェクト会議

那覇市、豊見城市、糸満市、南城市 八重瀬町、与那原町、南風原町

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】（1） 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産(策定時)	188	244	1,264	1,696	9.6	5.0	6.2	6.4	18,022	12,076	77,953	108,051
平成 22 年産 (目標)	189	251	1,249	1,689	9.6	5.8	7.3	7.3	18,107	14,501	90,738	123,346
(実績)	154	242	1,178	1,574	9.1	5.7	6.5	6.7	14,005	13,874	77,069	104,948
(達成度 (%))	(81.7)	(96.4)	(94.3)	(93.2)	(94.5)	(98.8)	(89.7)	(91.3)	(77.3)	(95.7)	(84.9)	(85.1)
平成 27 年産 (目標)	189	251	1,249	1,689	9.7	5.9	7.5	7.5	18,250	14,834	93,178	126,262
平成 26 年産 (実績)	172	203	1,018	1,394	7.3	4.3	5.1	5.3	12,612	8,713	52,010	73,334
(達成度 (%))	(91.2)	(81.1)	(81.5)	(82.5)	(75.5)	(72.6)	(68.1)	(70.2)	(69.1)	(58.7)	(55.8)	(58.1)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	13	—	3	6
平成 22 年度 (目標)	32	—	4	9
(実績)	52	—	7	7
(達成度 (%))	(162.5)	—	(175.0)	(77.7)
平成 27 年度 (目標)	35	—	4	12
平成 26 年度 (実績)	20	—	2	11
(達成度 (%))	(57.1)	—	(50)	(91.7)

(2) 評価

① 前計画で挙げた課題

- ・ 都市化の進展や高齢化による耕作放棄地の増加等により、収穫面積が減少している。
- ・ 労働力不足を補うために農作業受託組織や農業生産法人の育成等により安定生産体制を確立する必要がある。
- ・ ほ場規模が小さいことと地力が高いジャーガル土壌では萌芽性が良好で手刈りによる収穫体系、株出栽培が多いことから、ハーベスタによる収穫の機械化が遅れている。

② 課題に対する取組内容

- ・ 生産法人等規模拡大農家への遊休地の斡旋。
- ・ 諸事業を活用した作業機械の導入。

③ 解決した課題

- ・ さとうきび増産緊急対策事業を活用した耕作放棄地の再生、深耕・心土破碎の普及推進及び株出管理機の導入。

④ 依然として残っている課題

- ・ 収穫機械の増加に対して株出管理機の台数がかなり不足している。
- ・ 生産農家の高齢化は年々進み 60 代以上が 6 割を占めている。

⑤ 新たに生じた課題

- ・ 気象災害や病虫害（メイチュウ類）により単収の低下が著しく、生産者の生産意欲が衰退し新植比率が低下。
- ・ 外来雑草の侵入が年々増加の傾向にあり、生育茎数の減少を助長している。
- ・ 労働力の流出に伴い収穫機や株出管理機等のオペレータ確保が困難になってきている。
- ・ 同様に手刈り収穫請負班の作業員確保も難しくなり生産農家の需要に対応しかねている。

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	172	203	1,018	1,394	7.3	4.3	5.1	5.3	12,612	8,713	52,010	73,335
平成 28 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	7.9	4.9	5.8	5.8	11,036	10,225	60,182	81,443
平成 29 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	7.9	4.9	5.8	5.8	11,036	10,225	60,182	81,443
平成 30 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	7.9	4.9	5.8	5.8	11,036	10,225	60,182	81,443
平成 31 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	7.9	4.9	5.8	5.8	11,036	10,225	60,182	81,443
平成 32 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	7.9	4.9	5.8	5.8	11,036	10,225	60,182	81,443
平成 37 年産 (目標)	140	209	1,045	1,394	8.4	5.4	6.4	6.5	11,806	11,220	66,974	90,000

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	20	—	2	13
平成 32 年度 (目標)	25	—	2	18
平成 37 年度 (目標)	30	—	2	23

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・ 離農する方の農地を規模拡大に意欲のある生産者へ斡旋し流動化を促す。
- ・ 簡易な作業機械の開発を進め、収穫面積の維持拡大を図る。
- ・ かん水実演会を開催しかん水意識の高揚を図る。
- ・ 島尻マージ地域は、極力夏植を推進し気象災害に耐える生産量の確保並びに品種特性を活かした作型の選択を指導する。
- ・ ジャーガル地域は、春植の早期植え付けを推進し、単収向上を図る。
- ・ 新植後の土壌処理を徹底することにより、茎数確保及び初期生育を促し単収の底上げを図る。

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手刈り収穫請負班と生産法人や機械銀行などのハーベスタ収穫による収穫受託の競合</li> <li>・ 生産法人への農地集積が困難</li> <li>・ 早期株出管理作業のオペレータが不足</li> <li>・ 農地の一筆調査等によって遊休農地や荒蕪地解消、流動化に努める必要がある。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハーベスタ等収穫機械の導入が遅れており、収穫期間内での収穫作業が厳しい状況となっている。</li> <li>・ 一部を除き生産法人への農地集積が進まず、受託作業を中心とした生産法人も多い。</li> <li>・ オペレータ不足は近年なお深刻な状況にある。</li> <li>・ 農地中間管理事業によるサトウキビ生産者への流動化は望めない。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手刈り収穫請負班のニーズは高いものの、作業員の応募者は年々減少傾向にありミスマッチを生じている。</li> <li>・ オペレータの育成。</li> <li>・ 農地の出し手が少なく集約が図れない。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手刈り収穫請負班の支援。</li> <li>・ 機械士会との連携によるオペレータの育成。</li> <li>・ 他品目で労働力、オペレータとの連携による労働力確保対策</li> <li>・ 農業委員会との連携による農地流動化の促進を図る。</li> <li>・ 農地中間管理事業の活用等による遊休地解消事業の推進。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農作業受委託マッチングシステムの活用。</li> <li>・ 畜牛農家による株出管理作業オペレータ（1月～3月）の可能性を模索する。</li> </ul> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オペレータの育成 平成32年までに5人</li> <li>・ 耕作放棄地再生利用に係る事業等の活用による遊休地解消を促進する。農業振興地域内にある遊休地36haを平成32年までに30ha以下に減らす。</li> </ul>	

②農業共済制度への加入促進

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・農家の経営が零細なため 共済加入への意識が低い
- ・単収が高く被害のない農家、無事故農家において不公平感がある。
- ・加入申込はしたが 掛金納入期限までに支払えなくやむなく契約解除する農家がある。

【現状】

<H26 年度畑作物共済加入状況>

有資格戸数(戸)	3,103
加入戸数(戸)	491
戸数引受率(%)	15.8
対象面積(ha)	1,343
引受面積(ha)	273.4
面積引受率(%)	20.4
支払金額(千円)	21,066

【課題】

- ・共済制度の意識啓発。  
栽培面積における加入率は増加しているが、担い手農家の高齢化等による離農・規模縮小のため、共済加入の重要性についての認識が地域によりばらつきがある。

【取組の方向】

- ・共済制度について、丁寧な説明。
- ①支援事業等活用し、今後も OCR 調査時等に加入推進説明を行い、引受拡大に取り組む。
- ②離島地区で実施している個人別危険段階共済掛金の導入について検討する。

【目標】

<畑作物共済加入目標>

	28年産	29年産	30年産	31年産	32年産
戸数(戸)	600	750	1000	1250	1500
面積(ha)	349	418	488	558	697
面積加入率(%)	25	30	35	40	50

【計画】

- ・OCR 調査(栽培圃場調査及び要件審査申請)時に、関係機関連携して制度の理解を深めるための説明を今後とも継続し加入率向上に取り組む。

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																																																																																																		
①作型の選択	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作型比率については、夏植 10%、春植 15%、残りが株出 75%で長年推移しており、現状の比率を維持したい。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化に伴い、新植比率の低下が懸念される。</li> </ul> <p>&lt;作型構成割合&gt;</p> <p style="text-align: right;">単位：%</p> <table border="1" data-bbox="486 675 956 1010"> <thead> <tr> <th></th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H18</td><td>12.3</td><td>14.6</td><td>73.1</td></tr> <tr><td>H19</td><td>14.0</td><td>13.8</td><td>72.1</td></tr> <tr><td>H20</td><td>9.5</td><td>14.7</td><td>75.8</td></tr> <tr><td>H21</td><td>10.9</td><td>13.4</td><td>75.6</td></tr> <tr><td>H22</td><td>9.8</td><td>15.4</td><td>74.8</td></tr> <tr><td>H23</td><td>10.6</td><td>15.6</td><td>73.9</td></tr> <tr><td>H24</td><td>10.4</td><td>18.0</td><td>71.5</td></tr> <tr><td>H25</td><td>10.0</td><td>12.0</td><td>78.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>12.4</td><td>14.6</td><td>73.0</td></tr> </tbody> </table> <p>&lt;株出回数の状況&gt;</p> <p style="text-align: right;">単位：ha</p> <table border="1" data-bbox="486 1098 1050 1390"> <thead> <tr> <th></th> <th>1年次株</th> <th>2年次株</th> <th>3年次株</th> <th>4年次株</th> <th>5年次株</th> <th>6年次株</th> <th>7年次以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H18</td><td>549</td><td>582</td><td>400</td><td>318</td><td>121</td><td>28</td><td>25</td><td>2,022</td></tr> <tr><td>H19</td><td>468</td><td>491</td><td>504</td><td>284</td><td>141</td><td>35</td><td>60</td><td>1,982</td></tr> <tr><td>H20</td><td>588</td><td>452</td><td>490</td><td>290</td><td>138</td><td>64</td><td>46</td><td>2,068</td></tr> <tr><td>H21</td><td>499</td><td>487</td><td>373</td><td>287</td><td>201</td><td>90</td><td>52</td><td>1,989</td></tr> <tr><td>H22</td><td>478</td><td>445</td><td>372</td><td>203</td><td>147</td><td>115</td><td>141</td><td>1,901</td></tr> <tr><td>H23</td><td>499</td><td>426</td><td>344</td><td>207</td><td>110</td><td>83</td><td>171</td><td>1,839</td></tr> <tr><td>H24</td><td>537</td><td>430</td><td>269</td><td>194</td><td>95</td><td>58</td><td>171</td><td>1,753</td></tr> <tr><td>H25</td><td>580</td><td>403</td><td>286</td><td>156</td><td>111</td><td>51</td><td>148</td><td>1,735</td></tr> <tr><td>H26</td><td>409</td><td>476</td><td>290</td><td>188</td><td>89</td><td>70</td><td>142</td><td>1,665</td></tr> </tbody> </table>		夏植	春植	株出	H18	12.3	14.6	73.1	H19	14.0	13.8	72.1	H20	9.5	14.7	75.8	H21	10.9	13.4	75.6	H22	9.8	15.4	74.8	H23	10.6	15.6	73.9	H24	10.4	18.0	71.5	H25	10.0	12.0	78.0	H26	12.4	14.6	73.0		1年次株	2年次株	3年次株	4年次株	5年次株	6年次株	7年次以上	合計	H18	549	582	400	318	121	28	25	2,022	H19	468	491	504	284	141	35	60	1,982	H20	588	452	490	290	138	64	46	2,068	H21	499	487	373	287	201	90	52	1,989	H22	478	445	372	203	147	115	141	1,901	H23	499	426	344	207	110	83	171	1,839	H24	537	430	269	194	95	58	171	1,753	H25	580	403	286	156	111	51	148	1,735	H26	409	476	290	188	89	70	142	1,665	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島尻マージ地域は、夏植を推進し、株出回数 3 回程度での改植の推進</li> <li>ジャーガル地域は、春植→株出体系を維持する。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作型比率の維持、作型に応じた品種選定を指導する。</li> </ul>	
	夏植	春植	株出																																																																																																																																		
H18	12.3	14.6	73.1																																																																																																																																		
H19	14.0	13.8	72.1																																																																																																																																		
H20	9.5	14.7	75.8																																																																																																																																		
H21	10.9	13.4	75.6																																																																																																																																		
H22	9.8	15.4	74.8																																																																																																																																		
H23	10.6	15.6	73.9																																																																																																																																		
H24	10.4	18.0	71.5																																																																																																																																		
H25	10.0	12.0	78.0																																																																																																																																		
H26	12.4	14.6	73.0																																																																																																																																		
	1年次株	2年次株	3年次株	4年次株	5年次株	6年次株	7年次以上	合計																																																																																																																													
H18	549	582	400	318	121	28	25	2,022																																																																																																																													
H19	468	491	504	284	141	35	60	1,982																																																																																																																													
H20	588	452	490	290	138	64	46	2,068																																																																																																																													
H21	499	487	373	287	201	90	52	1,989																																																																																																																													
H22	478	445	372	203	147	115	141	1,901																																																																																																																													
H23	499	426	344	207	110	83	171	1,839																																																																																																																													
H24	537	430	269	194	95	58	171	1,753																																																																																																																													
H25	580	403	286	156	111	51	148	1,735																																																																																																																													
H26	409	476	290	188	89	70	142	1,665																																																																																																																													

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進展による植付作業の委託の増加。</li> <li>・高齢者にとって、収穫作業に次いで植え付け作業はかなりの重労働であり、委託する農家が増加の傾向にある。</li> <li>・機械植えによる発芽率の向上と、補植対策の推進</li> <li>・株出の継続実施、欠株増加による単収の低下。</li> <li>・雑草防除作業が不十分となり単収低下要因となっている。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易な植付機の開発を模索する。</li> </ul>	
<p>②気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畑地かんがい施設の整備率が低い。</li> <li>・農地防風林の整備が殆ど進んでいない。</li> <li>・地下ダム整備地区でのかん水率がまだ低い。</li> <li>・比較的干ばつ害を受けにくい地域ではあるが、畑地かんがいがないため、単収向上が困難である。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下ダム整備地区での開栓率が低く、かんがい施設の利用が低迷している。</li> </ul> <p>&lt;農業基盤整備の状況&gt;</p> <p>①水源整備率： 46.1%</p> <p>②畑地灌漑整備率： 20.7%</p> <p>③ほ場整備率： 63.1%</p> <p>※H26年度実績見込み</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下ダム整備地区の利用率が低い。</li> <li>・水源（取水箇所）が確保されていない。</li> <li>・かん水器材の保有率が低い。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かん水効果の実証展示ほ設置によるかん水意識の啓発</li> <li>・かん水器材の確保</li> <li>・かんがい設備の整備促進</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地下ダム整備地区の開栓率向上</li> <li>・取水可能な水源の確保</li> </ul> <p>&lt;農業基盤整備の目標（H33年）&gt;</p> <p>①水源整備率： 56.5%</p> <p>②畑地灌漑整備率： 38.4%</p> <p>③ほ場整備率： 64.0%</p> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光パネルを設置し、溜め池の有効活用を図る。</li> </ul>	

③機械化一貫体系の  
確立

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・ほ場規模が小さいこと、株出ほ場が多く機械収穫の踏圧を嫌うことからハーベスタ収穫が少ない。
- ・肥培管理や収穫困難な手刈り農家を支援するため収穫請負班が組織され、全茎脱葉施設の利用率向上に寄与している。
- ・手刈り収穫を望む農家が増加し、ハーベスタ収穫との競合が生じている。
- ・収穫直後の株出管理作業機とオペレータが不足している。
- ・農地集積が進まないため収穫作業受託に頼る経営を行う生産法人では、ハーベスタ利用率が伸びず経営が不安定となっている。
- ・ハーベスタの更新が困難である。

【現状】

- ・1割弱で推移していたハーベスタ収穫は、生産農家の高齢化に伴い3割弱(面積比率)まで急激に増加した。
- ・ハーベスタ収穫後の株出管理作業については、オペレータ不足や管理機材(サブソイラ等)不足により充分ではない。

<ハーベスタ稼働率の推移>

	18年産	22年産	26年産
保有台数	12台	17台	25台
収穫面積 (%)	133ha (8.7%)	244ha (15.5%)	401 (28%)
収穫量 (%)	6,652t (6.7%)	11,525t (11.0%)	18,030 (25%)

<管理機所有状況(H27年)>

単位：台

植付機	株揃え機	株出管理機	サブソイラ等
10	3	11	10

【取組の方向】

- ・ハーベスタの導入支援
- ・プランタ植付の普及に合わせた若苗作りを推進し、発芽率向上を目指す。
- ・早期株出管理を推進する。

【目標】

- ・ハーベスタの台数を平成32年までに5台追加導入する。
- ・ハーベスタ導入に併せて、株出管理機材の導入(ハーベスタ台数並みに)

<収穫機械の稼働目標>

	H28	H29	H30	H31	H32
ハーベスタ導入台数(台)	1	1	1		
ハーベスタ稼働台数(台)	49	50	51		
ハーベスタ収穫面積(ha)	433	435	438		



	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収穫料金体系は、統一されてなく応援依頼を受けた機種が断るケースもある。</li> <li>・ 更新時期を迎える機種もあり、費用捻出が厳しい。</li> <li>・ 収穫機械が入れないほ場（段差等による）も多く手刈り収穫請負班との住み分けも検討が必要。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械士会等のオペレータ研修会で、更なる技術向上を目指す。</li> <li>・ 収穫後1週間以内で早期株出管理作業が出来る体制作りに取り組む。</li> <li>・ 機械収穫実証展示ほを設置し、機械化の推進を図る。</li> </ul>	
<p>④地力の増進</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集中脱葉装置が導入され 収穫の省力化は進んだが、畑から有機物としての葉ガラ等が持ち出され、還元されないので、地力向上対策を早急を実施する必要がある。</li> <li>・ 家畜排泄処理水の利用も一部で普及しており、施肥量軽減とかん水効果が認められており、普及実演会による利用促進が図られている。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 堆肥を投入する農家は少なく地力の低下は否めない。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無脱葉収穫の普及で葉ガラ持ち出しが増えているため、地力維持対策が急がれる。</li> <li>・ 土壌改良資材を投入したくてもコストアップになり実施は困難である。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 畜産処理水のほ場還元計画があり、結果検証し、普及の可能性を模索する。</li> <li>・ 夏植予定ほ場では、大豆を植え付け、地力の向上を図ると共に収益向上を目指す。</li> <li>・ 緑肥栽培についての冊子配布</li> <li>・ 合併後も製糖工場からは新植ほ場へのバガス堆肥還元が継続して実施されるよう要望する。</li> <li>・ 堆肥散布機の活用により労力を軽減する。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑肥の普及推進を図る。</li> <li>・ 5年後を目処に大豆の植え付から収穫までのノウハウを習得し、普及を図る。</li> </ul> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製糖工場からのフィルターケーキの有効活用。フィルターケーキを植え付け時に覆土することにより、発芽率の向上と地力増進を図る。</li> </ul>	

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考
①栽培技術の普及等	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かん水効果の PR</li> <li>・ 株出補植技術の確立</li> <li>・ 収穫後早期株出管理の徹底（早期施肥）</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植え付け後の除草が充分でないため分けつが少なく品種の特性が活かされていない。</li> <li>・ 重要害虫の防除が徹底されていない。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽培講習会への参加者がいつも同じ顔ぶれで底辺への技術普及が困難。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基肥の効果を実証展示ほや写真パネル等で啓発する。</li> <li>・ 集落単位での栽培講習会も検討する。</li> <li>・ 基本技術の励行に向けたチラシ作成。</li> <li>・ 農研センターや農業改良普及センターからの新技術等の情報を得て生産者へ発信する。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自家苗の育苗並びに若苗作りを普及推進する。</li> <li>・ 基肥投入の励行。</li> <li>・ 土壌処理技術の普及により茎数確保を目指す。</li> </ul> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栽培技術研修会（呼称：さとうきび大学）の開催をサトウキビの栽培ステージに合わせて開催し、適した講師を招聘し基本技術の習得及び実行を促す。</li> </ul>	
②優良品種の選択・普及	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12 月から、年内操業が開始されており、早期高糖で多収性 株出萌芽性及び低温萌芽性に優れる品種の普及が必要である。</li> <li>・ 黒穂病に罹病しやすい NCo310 と Ni9 は特に、株出の萌芽位置の高い茎に発生しやすいので、収穫後の株揃えが必要だが、実施農家は少ない。</li> <li>・ Ni9 から黒穂病抵抗性品種への更新が必要である。</li> <li>・ Ni15 は早期高糖だが収穫後の株出萌芽が遅く、Ni17 は株出萌芽性に優れるが黒穂病の接種検定で罹病性が高いため、ほ場での発生等、品種の特性に留意して栽培する。</li> <li>・ 露地における側枝苗の育成は、黒穂病の感染リスクが高くなるので、側枝苗による増殖は避ける必</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家個々の栽培方法に沿った品種選択</li> <li>① 夏植のみ栽培・・・NiF8、Ni21、Ni27、Ni31</li> <li>② 春植→株出体系・・・NiF8、Ni21、Ni22、NiH25</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 春植の遅い植え付けでは、耐風性を考慮するよう指導する。</li> <li>・ 台風後の被害調査データを広く共有し品種選択の参考に資する。</li> </ul>	

要がある。

【現状】

<品種の推移>

単位：%

	NiF8	NiTn10	Ni15	Ni17	Ni21	その他
H18	29.3	25.0	11.5	3.6	—	30.6
H22	25.7	14.4	9.4	12.3	3.6	34.6
H26	22.2	8.5	5.1	4.3	21.6	38.3

【課題】

- ・株出中心の栽培が多いので、萌芽性に優れた優良品種を普及したいが、生産者は茎径の太いキビを好む傾向があり、株出多収の中太茎があれば普及したい。

【目標】

- ・品種特性の周知を図り、営農体系に応じた品種の選定、普及を図る
- ・品種展示ほの設置等を通じた品種の普及を図る。

【計画】

- ・年内操業が想定される今後においては、Ni15やNiN24等の早期高糖品種も継続して普及する。
- ・耐風性に劣る品種でも早期植え付けすることにより軽微な風災害で済むこともあり、慎重に品種選択を進める。
- ・全市町村へ品種の比較実証展示ほを設置する。
  - 糸 満 市・・・設置済み
  - 南 城 市・・・27年度
  - 八重瀬町・・・28年度
  - 南風原町・・・29年度
  - 豊見城市・・・30年度

③病害虫対策

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ・平成18年度からのポジティブリスト制度の実施に伴い、飛散など周辺の他農作物への影響を考慮し、防除指針を徹底する。
- ・黒穂病の防除については病害虫防除所作成のチラシを配布し、対策のPRに努める。

【現状】

<イネヨトウ誘殺数の推移(フェロモントラップ)>

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
H25	56	178	485	571	216	406	389	276
H26	96	114	198	359	200	245	434	143
H27	147	116	192	12	21	59	11	58

- ・平成27年3月にイネヨトウ交信かく乱事業によるフェロモンチューブを南部地区ほぼ全域へ設置したことにより、トラップへの誘殺数は過去2ヶ年と比較しても大幅に減少した。(27年8月末時点)

<イネヨトウ交信かく乱事業実施状況>

年度	実施地区
H26年度	糸満市(南)、本島南部(糸満市除く)

【課題】

- ・交信かく乱事業の成果が今後検証されると思われるが、メイチュウ類の被害は生産農家の生産意欲が削がれるので継続した対策が必要である。

【取組の方向】

- ・植え付け時の粒剤散布を徹底する。
- ・発生があれば散布剤(新剤：フロアブル等)を有効に活用し、被害拡大の防止を図る。
- ・病害虫防除技術センターや農研センターからの注意報・警報があれば、チラシ等により生産者へ周知し被害軽減に努める。

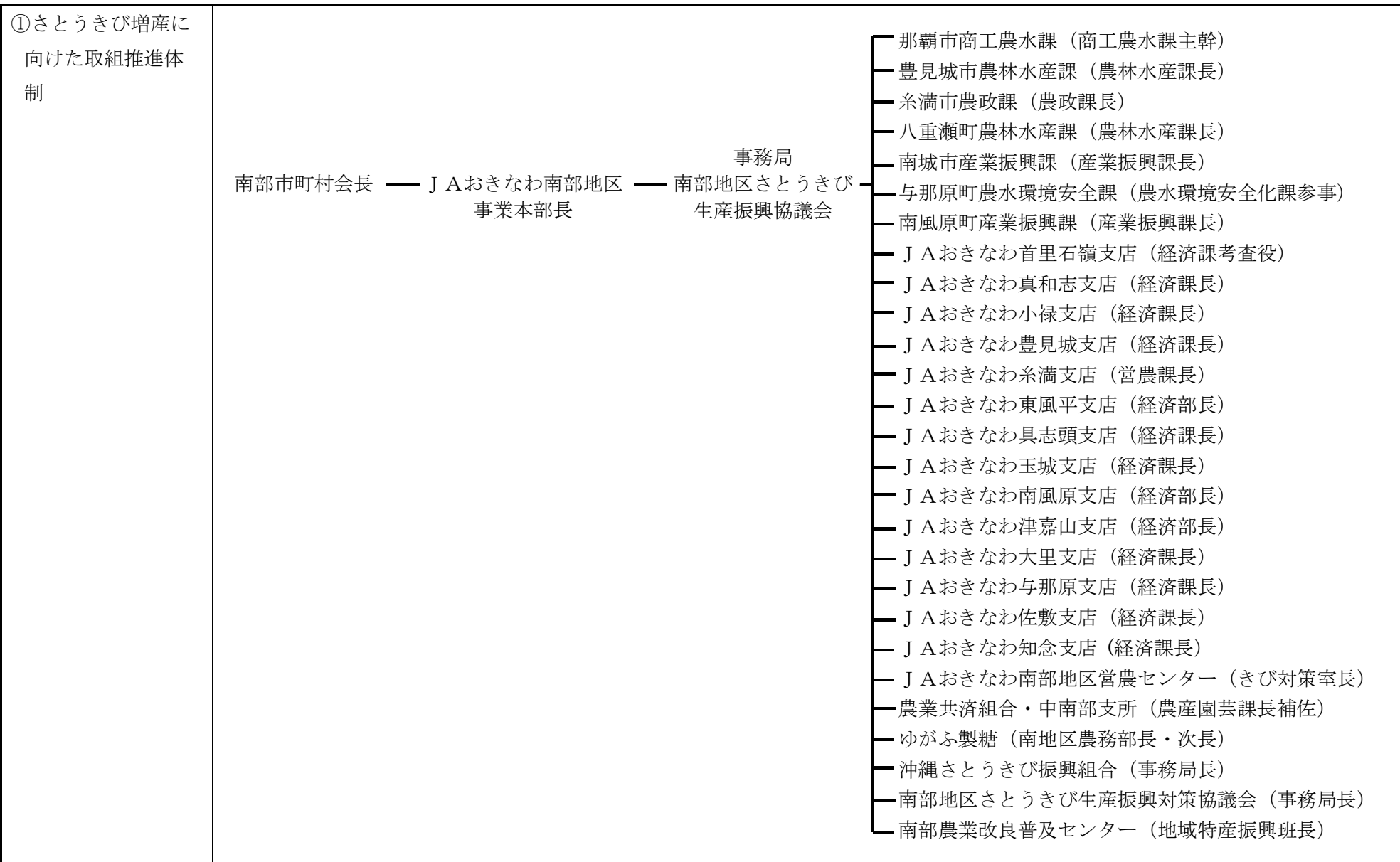
【目標】

- ・講習会等により病害虫に対する知識や対策を周知する。

【計画】

- ・交信かく乱事業によりイネヨトウの生息密度が低減された機会に生産者が併用して粒剤を使用すれば相乗効果でかなりの被害軽減が可能だと推測されるため、引き続き粒剤散布を徹底する。
- ・糸満市の残された一部についても、H27年度で交信かく乱事業実施予定。

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について



②関係者の役割分担

参画機関	担うべき役割	具体的取組方策		
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策
各市町村	<ul style="list-style-type: none"> <li>① プロジェクト会議の事務全般</li> <li>② 国・県事業導入及び予算等の事項</li> <li>③ 国、県との調整等</li> <li>④ さとうきび増産体制に係る事項</li> <li>⑤ その他増産に関する事項全般</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 受託組織の推進</li> <li>② 共済加入の促進</li> <li>③ 農業経営等の調査</li> <li>④ 認定農業者の認定・育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業導入計画</li> <li>② 水源の確保</li> <li>③ 農業機械の導入</li> <li>④ 集中脱葉施設の検討</li> <li>⑤ 防風防潮林の整備</li> <li>⑥ 緑肥栽培の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 展示ほの設置</li> <li>② 優良種苗の増殖普及</li> <li>③ 農家懇談会の開催</li> <li>④ 病害虫防除対策</li> </ul>
JA おきなわ (南部地区営農振興センター) (各支店)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産向上の推進に関する事項</li> <li>② 事業導入に関する事項</li> <li>③ 農家への普及啓発活動等</li> <li>④ 農家への技術指導に関する事項</li> <li>⑤ 生産組織、受託組織に関する事項</li> <li>⑥ 生産資材に関する事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産組織の推進</li> <li>② 受託組織の推進</li> <li>③ 共済加入の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 機械等の事業導入</li> <li>② 生産資材等の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 肥培管理暦作成</li> <li>② 展示ほ調査協力</li> <li>③ 病害虫防除の推進</li> <li>④ 農家懇談会の開催</li> </ul>
沖縄県農業共済組合 (中南部支所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 共済加入率の促進に係る事項</li> <li>② 病害虫被害耕地への対応のPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 加入促進説明会の開催</li> <li>② 個人別危険段階掛金率の導入検討</li> </ul>		
生産法人	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 機械化一貫体系による生産の担い手</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実証展示圃の設置協力</li> </ul>
ゆがふ製糖 (南部地区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実証展示ほ等への協力</li> <li>② 品種導入時の技術に関する事項</li> <li>③ バガス、ケーキ等の供給等</li> <li>④ その他、資材等の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産法人、受託組織等への協力</li> <li>② 共済加入の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 車両、機械等の提供バガスの供給等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実証展示ほの設置</li> <li>② 新品種の普及拡大</li> <li>③ 農家懇談会の開催</li> </ul>

	沖縄さとうきび振興組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 集中脱葉装置の稼働率向上</li> <li>② 排出された葉ガラの畑地還元促進</li> </ul>			
	南部地区さとうきび生産振興対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実証展示ほ等への協力</li> <li>② 増産プロジェクト基金による事業実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産法人への協力</li> <li>② 受託組織等への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 小型機械等の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 実証展示ほの設置</li> <li>② 病害虫対策</li> <li>③ 技術講習会</li> <li>④ 品種の導入</li> <li>⑤ 気象災害等への対応</li> </ul>
	農業改良普及センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生産技術に関する事項</li> <li>② 事業導入に関する事項</li> <li>③ 生産性向上に関する事項</li> <li>④ 県行政との調整に関する事項</li> <li>⑤ その他生産組織に関する事項等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 受託組織の指導</li> <li>② 農家経営等の調査</li> <li>③ 農業生産法人の指導</li> <li>④ 共済加入促進指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 事業導入への協力</li> <li>② 事業効果の検証指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 展示ほの設置、指導</li> <li>② 品種構成の指導</li> <li>③ 技術講習・実演会</li> <li>④ 土壌調査</li> <li>⑤ 栽培指針の策定</li> <li>⑥ 農家懇談会の開催</li> </ul>
③毎年度の検証方法・体制	増産プロジェクト会議の開催				

(参考情報)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

本地域は、沖縄本島の南部に位置し、那覇市、糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、八重瀬町の4市3町からなっている。地域の気象は年平均気温23.1℃、年平均降水量2,040mmとなっている。

産業別就業構造は、純生産額で第1次産業が1%、第2次産業が9%、第3次産業が90%となっている(H24)。農業産出額は2,119千万円(うちさとうきび223千万円)である(H18)。

土壌については、内陸部の泥灰岩が風化したジャーガル土壌と、海岸部は琉球石灰岩が風化した島尻マーヅからなっている。主な農業経営形態は、園芸作物(野菜・花き・果樹)、さとうきび、畜産(養豚・乳用牛・肉用牛等)である。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位: ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	4,631	—	1,903	43	—	2,085	—	273	4,631
H18	4,641	—	1,926	44	—	1,081	—	—	4,641
H19	4,647	—	1,844	—	—	1,231	—	—	4,647
H20	4,635	—	1,861	—	—	1,217	—	—	4,635
H21	4,634	—	1,767	—	—	1,275	—	—	4,634
H22	4,629	—	1,738	—	—	1,162	—	—	4,629
H23	4,585	—	1,704	—	—	1,206	—	—	4,585
H24	4,577	—	1,656	—	—	1,242	—	—	4,577
H25	4,515	—	1,549	—	—	—	—	—	4,515
H26	4,488	—	1,564	—	—	—	—	—	4,488

※H19年以後、品目によっては市町村統計が公表されていないため数値が把握されていない。



(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	188	244	1,264	1,696	95.921	49.521	61.674	63.721	18,022	12,076	77,953	108,051	14.70
H18	207	247	1,236	1,690	89.991	55.433	63.639	65.668	18,634	13,697	78,641	110,973	14.30
H19	236	233	1,215	1,685	91.030	56.799	63.284	66.273	21,486	13,250	76,905	111,641	14.40
H20	159	248	1,277	1,685	93.519	68.828	76.360	76.876	14,915	17,065	97,535	129,515	14.70
H21	176	217	1,220	1,613	102.184	61.513	68.877	71.530	18,017	13,321	84,007	115,345	14.70
H22	154	242	1,178	1,574	90.741	57.323	65.451	66.681	14,005	13,874	77,069	104,948	14.60
H23	164	241	1,142	1,546	52.576	41.326	45.592	45.669	8,615	9,939	52,067	70,621	14.20
H24	158	274	1,086	1,518	70.640	39.360	46.990	48.080	11,186	10,803	51,020	73,009	13.70
H25	138	165	1,074	1,377	66.150	48.030	55.420	55.610	9,107	7,920	59,533	76,560	14.60
H26	172	203	1,018	1,394	73.204	42.826	51.089	52.617	12,612	8,713	52,010	73,334	14.00

【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H19	18	112	330	801	1,527	2,788
H20	20	107	333	843	1,687	2,990
H21	23	112	346	869	1,896	3,246
H22	19	102	337	840	2,044	3,342
H23	22	97	328	825	2,243	3,515
H24	27	105	331	809	2,480	3,752
H25	26	95	287	739	2,457	3,604
H26	22	88	255	659	2,357	3,381

【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	4,049	190	13	3	4,255
H18	4,009	171	11	2	4,193
H19	4,157	197	17	4	4,375
H20	4,083	211	17	4	4,315
H21	4,176	216	21	4	4,417
H22	4,433	198	17	3	4,651
H23	3,905	189	18	4	4,116
H24	3,715	205	15	9	3,944
H25	3,314	182	20	5	3,521
H26	3,260	184	16	7	3,467

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	59.48	87	12.01	4.91
H18	60.46	91	11.86	5.43
H19	60.09	88	12.15	5.27
H20	70.19	100	12.00	5.16
H21	61.45	85	11.87	5.78
H22	56.13	89	12.09	5.00
H23	37.42	69	11.42	6.55
H24	38.45	69	11.69	4.91
H25	40.26	71	11.79	6.86
H26	38.61	71	11.96	6.52